

チャレンジ弥彦村

討議資料



小林とよひこ後援会だより

第12号 平成27年7月16日

武田芳久後援会長より

小林とよひこ後援会の皆様ご無沙汰しております。新村長が就任して4ヶ月が経過致しました。スタートしてから、未だ4ヶ月（1期4年=48ヶ月）任期のわずか12分の1です。選挙戦で掲げた政策の実現をめざし、チャレンジ弥彦村は各方面で少しずつですが前に動き始めました。そのスタートに対して、様々な批判の声やまた激励のご意見も多く聞こえてきます。今までの慣例を変えることは並大抵の事ではなく、多くの批判や強い抵抗がでてきても当然の事であると思います。今後も、予期せぬ反論や中傷などがあるとは思われますが、豊かな弥彦の村作りのため後援会の皆様と共に一丸となって新村長を支えていきたいと思っております。今後とも更なるご支援をよろしくお願い申し上げます。

小林豊彦村長より

後援会の皆様お元気でご活躍のことと思います。皆様のお力で当選させていただき、初登庁した2月23日からあっという間に5ヶ月目に入りました。気分的には1年間村長を続けたように感じております。この4ヶ月間本当にいろいろな事がありました。覚悟はしていましたが、なかなかのものです。私の性格は困難な時、強い抵抗を受ければうけるほどやる気が出てきます。それが時には強引にもつながります。個人的な私利私欲でなければそれでも仕方ないと思っていました。しかし、首長の責務は村をよくすること、村民のみなさんにとって安全で住みよい村を作ることにつきます。政治、地方自治とは「急がば回れ」を選択することも大事だと教えてもらいました。原理原則は堅持しつつ皆さんの意見をよくお聞きしながら村政を進めさせていただきたいと思っております。

弥彦在住の方々並びに近在の方々や彌彦神社の参拝者、観光客の皆様方に弥彦・県央地区産の野菜・果物を中心に販売しております。皆様のお越しをお待ちしております。



営業時間 午前9時～午後3時まで



「YAHALL」弥彦観光案内所の前 弥彦交番のとなり

「アンケート結果」について、村長よりお答えします。

村長選後、アンケートをお願いしました。112名の多数の皆様から、貴重なご意見をいただきました。今後の村政運営に反映させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

アンケートから主な抜粋です ○弥彦村はまず元気になる必要があります。元気になるためには村が活気に満ち、村外からも魅力的に見られることです ○小林新村長誕生のおかげで私もこの先の希望の灯が燈ったような気持ちです ○役場職員は弥彦村の顔であり自覚して勤務していると思いますが、電話対応はまず自分の名前を ○弥彦公園、神社等に案内看板が少ない ○おもてなしの村づくり：弥彦村にとって必要不可欠の課題であり、県外からの観光客にはただの通過点に過ぎない ○行政、商工会、神社、旅館組合、商店関係、関係機関がもっと真剣に自分の所だけ良ければいい等と視野の狭い考えだけでは展望は開けない 等々でした。

皆さんがお寄せくださった個々のアンケートは、別刷りで掲載しました。また、この紙面では、村長からの回答のみを掲載します。

A：村政全般

村民皆様のご意見を良く聞きながらガラス張りの村政を進めて行くこと、多くの方からのこの戒め、ご指摘を肝に銘じて村政を進めてまいります。目標、願いはただ一つ、弥彦村を良くすること、村民の皆さんが安心して住める村にすることです。若い人が定住してくれる村、子供たちの元気な声がいたるところに溢れている村、にすることです。

B：グランド跡地

グランドホテル跡地は大変貴重な村有地であることを当選後ますます実感しております。地方創生の国の政策に合うような村独自の総合計画を作り、弥彦活性化の中核となるよう全力をあげております。皆様のご期待に背かないよう頑張ります。

C：観光

村長に就任してから県内市町村長の皆さんはもちろん、県外の市町村長とお会いする機会が結構あります。その時、弥彦村の彌彦神社への参拝客が年間実数で135万人から140万人と説明しますと、異口同音に皆さん羨ましがります。大抵の自治体はまず人を自分の自治体に呼ぶこむことが大変だからです。弥彦村がこれからも自主独立の村として発展するためには、参拝客を観光客にすることが絶対条件なのです。皆さん一緒にがんばりましょう。

E：木質バイオマス発電

木質バイオマス発電プロジェクトはようやく中越よつば森林組合とタイアップし、まず弥彦山山系の資源量がどれくらいあるかの調査を開始することになりました。極めて難しい事業です。それだけに、逆に、事業として成功すれば他の自治体がまねできない弥彦村をけん引する機関車を持つこととなります。チャレンジさせてください。皆さんと一緒にチャレンジしようではありませんか。

F：高齢者福祉

高齢者福祉対策は喫緊の課題です。しかし、残念ながら村の体制が出来ていません。まず、ソフト面からの高齢者福祉対策充実に取り組みます。

G：社会福祉全般

国からの宿題弥彦村総合計画の中に盛り込むべく作業中です。夢でなく実現できるものですので、ただいま格闘しております。

H：子育て支援

子育てファンド1000万円の用途を決めるため、村民の皆さんによる専門委員会を立ち上げます。皆さんから出されている沢山の要望、希望の中からまず優先順位を決めて、実行してくれるものと大いに期待しております。

J：教育

教育長、小中学校の校長先生など関係者の皆さんと協議を鋭意進めております。近いうちに皆様に提示できるものと思っております。